

昭和肥料ニュース

FAX版



Vol. 060

記録的な猛暑が続きますが、お盆を過ぎ、夜には虫の声が聞こえ始めました。これから作付が始まる作物としては、アブラナ科野菜（白菜、大根など）、ユリ科野菜（玉ねぎ、にんにくなど）などがあります。それらの作物に欠かせない微量元素の一つにホウ素があります。今回はそのホウ素のお話です。

ホウ素について、おさらいしましょう

ホウ素は作物に必要な不可欠な必須栄養素です。カルシウムと同様に作物を強く育て品質を高めます。廃棄品率の軽減、秀品率の向上を通じて生産者様の収益にも貢献することから、主産地では特に注目されているようです。

ホウ素が不足すると成長点（新葉、果実表皮、根の肥大部）に障害が発生します。特にアブラナ科野菜では必要量が多く、欠乏症が出やすいので要注意です。

欠乏時はホウ砂や、ホウ素入り肥料、微量元素資材（弊社の土作り資材）を与える対策が有効です。なお、欠乏時の緊急的な対策としては、ホウ砂0.3%水溶液を数回葉面散布すると良いでしょう（濃すぎると過剰害リスクあり）。

ホウ素欠乏症が出た圃場には、ホウ砂（★1）を与えたり、弊社の土作り資材（★2）を与えたりしてください。

（★1：10a当たり 一般野菜で1kg、果樹類で2～4kg程度）

（★2：ホウ素を微量含有しており、使いやすい。詳しくはお問い合わせください！）

なお、ホウ素は過剰害も出やすいため、その施用量には注意が必要です。土壌分析結果がある場合は、土壌中の有効態ホウ素濃度を好適範囲とされる0.8～2 ppmに近づけるよう加減しましょう。一般的には作物や土壌特性を考慮した、各地方の推奨施用例があればそれに従うのが良いと思います。

ホウ素が効きにくい条件と、その対策

【効きにくい条件】

- 高温乾燥
（成長期の水不足）
- 高い土壌pH
（アルカリ土壌）
- 欠乏圃場
（連作地、砂質土壌）

【対策例】

- 適正な灌水の実施、根張りの良い土作り
総合的な改善が必要です、ご相談ください
- 適正なpH管理
鶏糞、石灰窒素、石灰資材の使い過ぎ注意
石灰（カルシウム）とは拮抗作用があります
- 「適量を継続する施肥」の実施
流亡しやすいのに、過剰害も心配なため

ホウ素欠乏症は連作地を除けば、効きやすい条件に導くことで抑えられます。貴社顧客様でお困りの際には一度ご相談ください。